

イノベーション創出の拠点

KU-CIC

イノベーション創生センター

Kansai University
Center for Innovation &
Creativity

NEWSLETTER

CONTENTS

Open Lab

研究室のイマ

商学部商学科 株式会社Ku:P / 西岡 健一教授

Portrait

未来を担うイノベーターズ

ORAM株式会社 / 野村 光寛氏

大学院理工学研究科

博士課程後期課程 総合理工学専攻 / 西上 翔磨さん

News & Topics

イノベーターズトーク

起業サポートシリーズ

企業見学会シリーズ

アントレプレナーシップ醸成セミナー

2024年度KUGAP採択者紹介

入居ベンチャーの活動報告

今後のイベントスケジュール

「Mission Lounge」活動報告

編集後記

社会課題を捉える。

Open Lab

→ 研究室のイマ

関大発ブランドきのこ「豊茸」をプロデュース きのこ生産農家の減少に歯止めをかける

関西大学 商学部 西岡 健一教授 株式会社Ku:P 代表取締役



化学生命工学部・老川教授の amino 酸研究を活かし、 うま味や栄養を豊富に含むきのこ開発に成功

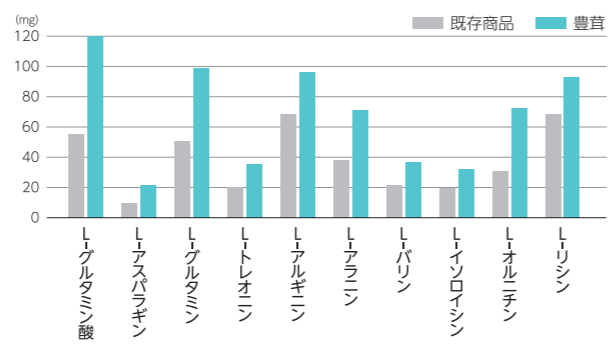
私が代表取締役を務める関西大学発ベンチャー企業・Ku:P (キューブ)は、関西大学化学生命工学部 老川典夫教授とJAながのが、うま味と栄養が豊かなブランドきのこ「豊茸(ほうだけ)」のプロデュースを行いました。2024年1月26~28日には、大阪梅田・阪急百貨店地下食料品売り場でブランドの第一弾となる豊茸ブナシメジの販売も行い、晴れて商品としてリリースすることができました。

Ku:Pは、関西大学の研究室で生まれる研究・技術・サービスなどを、独自にネットワークした多様な分野のプロフェッショナルと共同し、その知見やノウハウを活用しながら社会実装することで、新たな市場の創出をめざす会社です。

今回開発・販売した豊茸ブナシメジの特長は、うま味成分や栄養成分の amino 酸が豊富に含まれていることです。ここには、老川教授の amino 酸に関する研究が活かされています。そして、JAながのと共同し、「D-amino 酸」を用いた菌床栽培実験を約5年にわたって繰り返し、栽培方法を確立することができました。現在、特許も出願しています。

成分検査では、豊茸ブナシメジは一般的に栽培されたぶなしめじと比べ、様々な amino 酸値が1.5~2.3倍含んでいることが報告されています。また、モニター結果からは、しっかりとした歯応えがあり、きのこ特有の臭みが少なく子どもにも食べやすいという評価を得ています。

JAながの生産
豊茸ブナシメジと一般的に栽培されたぶなしめじの
可食部100gあたりの amino 酸含有量 (mg) の比較



Ku:Pが掲げる企業理念の一つに、「社会課題の解決」があります。この「豊茸」で解決したい社会課題は、「長野のきのこ生産農家の減少」です。

長野のきのこ生産農家は、ここ数年で大幅に減少しています。2010年ごろまでは、きのこは他の野菜などに比べて利益率が高い農産物として生産量も増加していました。しかし、その過当競争のなか、6年前には価格が値崩れを起こし暴落しました。作れば作るほど、売れば売れば赤字になる。それでも何とか凌いできたところへ、コロナ禍による物流停滞とロシアのウクライナ侵攻が引き起こしたエネルギーの高騰が追い打ちをかけた。電気料金が上がりハウス栽培を維持しきれず、撤退する農家が相次いでいます。

実は、豊茸ブナシメジの販売価格は、一般的なぶなしめじの約3倍の価格です。阪急百貨店では、200g299円(税込)で販売しました。私たちは最終価格を決定できませんが、今後もこのレベルの価格設定を維持する必要があると思っています。その売上は生産農家にも還元されるため、利益率は大幅に改善されることとなります。

しかし、いくら3倍の価格で売ると言っても、消費者の納得と支持が得られなければ、それは「絵に描いた餅」です。この3倍の価格を実現・維持するためにはどうすればよいのか? 今回の商品化で、研究・開発・生産と同じように注力しているのが、マーケティングです。

「豊茸」は一般的な栽培方法のきのこより、さまざまな種類の amino 酸が多く含まれています。なかには、睡眠改善や、肝臓・筋肉に作用する機能を持つ amino 酸もあります。「豊茸」はそれだけ魅力と機能面でのポテンシャルを持っているきのこののです。

しかし、amino 酸がたくさん含まれているというだけでは、販売ターゲットが限定されてしまうため、顧客、販売チャネル、小売りの特性に応じて訴求ポイントを言語化し、それぞれに適した販売プロモーションを展開していくことにしました。

形態	農産物	加工食品	健康機能食品		
価値	ブランドを訴求	機能性を訴求 食物繊維 睡眠 肝臓 筋肉 美容			
販売チャネル	百貨店	高級食品店	飲食店	ドラッグストア	薬膳



こうしたブランディングやマーケティングを行い、テスト販売をかねた市場調査を行ったのが、商学部西岡ゼミの学生です。学生自身も売り場に立ち、直接購入者に品質の高さやその開発ストーリーを知ってもらうことで、高い価格設定でも納得感が得られ、購入されることを確認・確信できました。

今回、お披露目販売のステージとして阪急百貨店を選んだのにも理由があります。ブランドきのことして関西で売り出すなら、商品イメージがブレずに伝わり、PR効果や波及効果が高い売り場を選ぶべき。そう考えたうえでの選択です。

さらに、本学の卒業生で料理コラムニストの山本ゆりさんに豊茸ブナシメジをより美味しく食べるためのレシピ開発を依頼しSNSなどでも発信。話題づくりの観点からも工夫を加えています。



Ku:Pのトータルプロデュース力を活かして、 社会課題を解決する関大発商品のリリースを!

私たちは、きのこ市場のシェア獲得をめざしているわけではありません。きのこ市場の隣で、きのこという農産物に新しい魅力と価値を生みだし、そのポテンシャルを世の中に示し、きのこ市場全体の拡大と活性化を図っていく。さらには、「豊茸」をブランド化することで農家の利益にも貢献し、生産農家の減少に歯止めをかけることにつなげたい。それが狙いです。

今後は、安定的に流通できる生産体制を作っていく予定です。ぶなしめじは、出荷するまでの期間が比較的長く、80~100日程度かかります。まとまった量を出荷するには、生産方法など特許に関する守秘義務を守っていただける生産農家が必要になります。安易に拡大するのではなく、そこは慎重・丁寧に進めていく予定です。現在商品化できているのは、ぶなしめじですが、他の品種の商品化にも取り組み、豊茸ブランドの横展開を図っていく予定です。

また、Ku:Pではきのこに限らず、他の商品開発のマーケティングも視野に入れています。Ku:Pの持ち味は広い守備範囲と高い機動力を持ったトータルプロデュース力です。インキュベーション機能を持つここCICを拠点にすることで、学内の研究シーズのキャッチアップ、外部と連携した生産方法の研究・開発、販売方法や販売チャネルの開拓、さらにはブランディング、知的財産管理など、一連のタスクに対して縦横無尽に取り組むことができます。CICをベースにしなが、社会課題の解決に役立つ関大発の商品やサービスをリリースしていきたいですね。

西岡 健一教授
Kenichi Nishioka



関西大学商学部教授(専攻: サービス・イノベーション論、事業創生論)
PhD(エジンバラ大学)
東京理科大学工学研究科修士課程、神戸大学大学院経営学研究所専門職学位課程
エジンバラ大学ビジネススクール博士課程修了
日本電信電話株式会社ネットワークサービスシステム研究所、西日本電信電話株式会社を経て、2009年に関西大学商学部に着任。現在に至る。

建設機械の遠隔化・知能化を実現 人手不足(ヒトがおらん課題)をORAMが解決

▶ 建機遠隔化、そのキーテクノロジーは後付け操作ロボット ネットワーク技術の融合で最適解を導く

私たちの事業は、建設現場の既存ブルドーザーなど建機や、倉庫の既存フォークリフトなどをORAM(オラン)株式会社独自の後付けシステムで遠隔化するアプリケーションの開発とその社会実装です。たとえば、倉庫内のフォークリフトの遠隔化なら通信環境も整備しやすく遠隔化しやすいのですが、屋外・トンネル・山間部など様々な環境で遠隔操縦が想定される建設現場ではそうはいきません。ORAMの遠隔化ソリューションは、現場条件・作業内容・要求される生産性など、あらゆるユースケースの最適解を導き出す技術ノウハウと事業化ノウハウに集約されます。キーテクノロジーであるNetwork Roboticsは、運転席にある操作レバーやフットペダルに後付けする小型ロボット(アクチュエータ)と、遠隔オペレータが操作するコックピットに実装するHMI(Human Machine Interface)、そして現場で無人で走行作業する建機と遠隔通信する無線ネットワーク技術の3要素で構成されます。HMIやネットワークシステムの工夫により、一人の遠隔オペレータがタッチパネルを用いて、異なる現場に配置された遠隔建機を選択し、車輛を乗換えることを可能にしました(Switching Cab*)。これにより一人の遠隔オペレータの労働力はNetworkを通じてあらゆるところへリソースシフトされ、現実世界で必要となるオペレータの移動コスト(移動時間・交通費)を“ゼロ”に抑え、熟練オペレータの高度な技能は広く共有される新たな動き方を創出します。

これまでに無かった無人建機による機械土工の安全性については、今後社会実装が必至な同技術の普及を目指し、現在国土交通省が中心となり同技術開発者・有識者を集め適切な安全対策や関連基準の整備に取り組んでおり、我々も、国土交通省“建設機械施工の自動化・自律化協議会 自動施工機械・要素技術サブワーキング”のメンバーの一員として、未来の無人化建機実現のために取り組んでいます。



▶ 創業の原点:実学から学ぶMVP(Minimum Viable Product) 無から有を創造するモノづくりと、スモールビジネスの実現

1980年代、家業である建設業向け産機メーカーが未だ町の鉄工所であった頃、工場の中で油まみれの鉄のかたまりが、電気を入れモーターが動きだした途端、整然と制御され動作し、作業員10人以上の仕事が瞬時に成し遂げる機械へと変化したことを目の当たりにしました。また、現場の困り事やニーズを解決する機械を考案し、製品として提供することで、全国から声がかかり、高度成長期を追い風に町工場は産機メーカーへ成長していきました。このような家業の成長を幼い頃傍らに観て体験したことが、私の機械屋・ものづくり、経営者としての原風景です。

関西大学大学院在学中は、現在ORAMの最高技術責任者であるシステム理工学部倉田純一元准教授のもとで、計測と制御技術を学びました。修了後はオムロン株式会社に入社し、パターン認識や現在のAI(Deep Learning)につながる画像処理技術、現在の遠隔操縦技術にも関わるセンサーフュージョンの研究開発に携わりました。その後、家業に参画し当時最先端であったセンシングやRobotics技術を建設業界へ導入することで、家業を関西を代表するものづくり企業、グッドカンパニー企業へと従業員と共に成長させました。この頃はよく、リアル“下町ロケット”としてお話し、光栄でした。

スタートアップ企業創業者の先輩として学生のみなさんにアドバイスするとしたら、「夢は現実から生まれ、夢に日付を付けることで現実になる。行動あるのみ!」という言葉を贈ります。不便を便利にする工夫と仕組みづくりが、スモールビジネスとして成立するのかを検証し実証実験として活動・評価すること。そこに夢があり、仲間が心躍らせる事業に成長させることができれば、それはスタートアップの創業だと思っています。私は、関西大学の学是「学の実化(がくのじつげ)」は、そのような意味も含んでいると考えています。このような挑戦をいくつ繰り返せるか?それが学生時代で一番大切なことだと思います。

オラン
ORAM株式会社 代表取締役(CEO)
野村 光寛氏

大阪府出身
1994年 奈良学園高等学校 卒業
2000年 関西大学工学部機械システム工学科 卒業
2002年 関西大学大学院工学研究科機械工学専攻 修了
2002年 オムロン株式会社 技術本部センシング研究所 入社
2007年 大裕株式会社(家業:建設業向け産機メーカー) 専務取締役 就任
2021年 ORAM株式会社 創業・設立

群れが生む知能で害獣を探索 自動化で社会課題解決に貢献

▶ 人の立ち入りが困難で、探索対象の位置・数・存在範囲が不明 群知能を使えば、難しい探索作業も自動化・省力化できる

いま私たちが研究開発している「群知能を用いた移動センシングクラスタによる害獣探索システムの検証」が関西大学GAPプログラム(KUGAP)*に採択されました。

このシステムは、温感センサーを搭載したドローンで群れをつくり、群れをつくるからこそ生まれる知能と機能を利用して、農作物や人に危害を及ぼすクマやイノシシなどの害獣の居場所を自動で見つけるシステムです。実現すれば、これまでは人力でしらみつぶしに探すか、単体のドローンを人が操縦し行っていた探索作業を、一気に自動化・省力化することができます。群知能とは、自然界の生物のふるまいを模した人工知能アルゴリズムの一種です。童話「スイミー」でお馴染みですが、イワシは群れをつくって自分たちを大きく見せていますし、鳥はV字飛行で移動効率を上げています。群れの中の一つひとつの生命体は、ごく簡単なルールに基づき行動しているだけですが、単体ではなし得ない「群れとしての高度な知能や機能」を生んでいます。群知能は、この相互に作用しあうことで生まれる「群れの力」を応用しています。

また、移動センシングクラスタ(MSC:Mobile Sensing Cluster)は、関西大学が特許を取得している技術です。複数の自律移動体(ドローン等)が無線で情報を共有し、その情報をもとに相互作用し、現場の状況に応じた「最適な群れの動き」を実現できれば、短時間で探索作業などを行えるようになります。この技術は、すでに社会実装が見込める領域も出始めており、なかでも次の3つは有力な領域です。

- ①害獣探索等の農業分野への適用
 - ②漁業における灯船(探索用漁船)の代替
 - ③災害時における要救助者の探索・救助、大規模火災現場の熱源の探索・消火活動や建物崩壊によるガス・放射線漏れ箇所の特定など
- これらはいずれも、人の立ち入りが困難で、探索対象の位置・数・存在範囲がわからず、事前に探索経路も設定できません。群知能を用いて、変化する環境に応じた探索を行う事で、効率よく成果をあげることができます。

▶ 社会実装できてこそその研究、そのためにやがては起業を 長年取り組んできた技術を、自分の手で社会に送り出したい

博士課程後期課程を終えるまで、あと約2年。その間での目標は、まずは研究パートナーとなる企業を見つけることですね。今回のKUGAPの資金をもとに複数台のドローンを購入し、夏までには実証実験を行う予定です。秋には毎年参加している国際展示会に、今年はその実験結果をまとめて出展します。いろんな業種の方に、実験で得られた具体的なデータを見ていただき、このシステムに対する評価やクリアすべき課題のヒントを得たいと考えています。

さらに将来は、この技術を持って起業するつもりです。私は、「社会実装できてこそその研究」と考えています。高校時代に「DX先進国」のオランダに留学し、スマート農業に衝撃と感銘を受け、産業の自動化にとっても興味を持ちました。その後、学部研究室でこの研究に出会いました。学部卒業後は、一旦企業に就職したのですが、ずっと携わってきたこの技術を自分の手で世に送り出したいという想いをあきらめきれず退職し、大学院に進学するという決断をしました。

いずれはCICの1室を借りて会社を設立し、ここを拠点として活動を続けたいと考えています。CICは、研究・技術シーズを起業へとつなぐインキュベーション機能を備えています。幸いにも、ここで起業し社会実装を果たした研究室の先輩もいます。起業のためのさまざまなサポートが得られる環境を活用し、サクセスモデルを間近に見ながら、自分なりの起業と社会実装のカタチを探っていくつもりです。

*KUGAP(関西大学GAPプログラム)とは?
イノベーション創生センターが行う関西大学発ベンチャー創出支援プログラム。研究成果と事業化の間に生まれるギャップ(GAP)を埋めるため、試作品製作や実証実験などの資金を支援し、起業に向けたアドバイスや各種サポートを行う。



関西大学大学院 理工学研究科
博士課程後期課程 総合理工学専攻
ネットワーク工学研究室
関西大学次世代博士研究員
西上 翔磨さん

大阪府出身
2016年3月 帝塚山学院泉ヶ丘高等学校 卒業
2016年4月 関西大学 環境都市工学部 都市システム工学科 入学
2020年3月 関西大学 環境都市工学部 都市システム工学科 卒業
2021年4月 関西大学大学院 理工学研究科 博士課程前期課程
2023年3月 関西大学大学院 理工学研究科 修了
2023年4月 関西大学大学院 理工学研究科 博士課程後期課程
2023年4月 関西大学次世代博士研究員

Innovator's Talk

イノベーターズトーク

起業はもちろん、就職後も必要なアントレプレナーシップ(起業マインド)を醸成するイベント。活躍されている若手起業家や企業内で起業した社会人の経験談や想いから学びます。

学生の感想

話を聞いて終わるだけでなく、自分を見つめ直す機会にもなったところが良かった。

2023年11月16日

Vol.31

ハイフレックス開催 JST-START事業スタートアップ・エコシステム形成支援
【京阪神スタートアップアカデミア・コアリション(KSAC)共催】

ない株式会社 代表 岡 シャニカマ氏

テーマ 意識高い系の末路「意識の高山病」について

意識が高まりすぎたゆえ、人生の選択を大いに誤った経験があると話す岡氏。講演ではそんな「意識の高山病」についてお話いただき、この病の本質的な弊害は「地に足がつかなくなる」ことだと語りました。セミナー終盤には、膨らませた期待(気体)を打ち砕く「風船書き初め」を行い、最後は実力や実績が伴わないまま意識「だけ」が向上するのではなく、重要なのは、現実的な行動やスキルアップを並行して行うことだと伝えました。



学生の感想

たくさんの挑戦と失敗で経験を積み重ねれば成長がないことを強く感じた。



2023年12月5日

Vol.32

ハイフレックス開催 JST-START事業スタートアップ・エコシステム形成支援
【京阪神スタートアップアカデミア・コアリション(KSAC)共催】

本学出身 株式会社レストレーション 代表取締役 森脇 暉氏

テーマ 地方から日本を面白く!! ~メガバンクを辞めて起業!
中国地方最大のグランピンググループを作り上げる迄~

衰退する故郷に危機感を覚え、地方から日本を盛り上げる事を志してきた森脇氏。ふるさとへの想いを胸に起業。関大サッカー部での大挫折からメガバンクへの入行、そして起業に至るまで様々な経験をしてきた森脇氏が、失敗から学んだこと、起業のリアルについて話しました。「感情・環境・関大が人生を切り開く!!」とともに、「あなたならできる!!」と最後に参加者を鼓舞する力強いメッセージを贈り講演が終了しました。



起業サポートシリーズ

起業に必要な知識・スキルについて
セミナーおよびワークショップスタイルで学びます。

vol.7

2023年11月30日 / 12月1日
課題発見・追及ワークショップ
「ドコモ発! ファッション系スタートアップで
新規事業開発デビューの2日間」

学生の感想

たくさん考えられて、共有できて、議論できて、質問やアドバイスをいただけて本当に楽しかったです! 考えることが好きだなと改めて思えました。2日間貴重な時間をいただきありがとうございました。

株式会社ドコモgacco
経営企画室 マネージャー(当時) 飯野 健太郎氏

ワンダーファイ株式会社
マーケティングマネージャー(当時) 長畑 郁氏

株式会社NTTドコモ
コンテンツサービス部 主査(当時) 佐藤 瑠生氏

NTTドコモの新規事業共創プログラム「docomo STARTUP」より誕生したファッション相談アプリ「coordimate(コーディネイト)」の課題発見と解決策の考案に取り組みました。coordimateを使い続けてもらうためのアイデアをテーマにグループワークを行い、成果発表として各チームが独自の事業を提案し、ワークショップが締めくくられました。coordimateの一員として活動することができた、充実の2日間となりました。

企業見学会シリーズ

先進的な取り組みを行っている企業を訪問し、最先端の技術・アイデアが詰まった施設の見学や、社員との意見交換を通して企業の新規事業について学びます。

vol.12 / 2023年9月15日

NTT西日本 オープンイノベーション施設「QUINTBRIDGE」

企業・スタートアップ・自治体・大学などが自由に交流し、それぞれの思いやアセットを共有しながら共創を進め、実社会での活用をめざした、NTT西日本が運営するオープンイノベーション施設「QUINTBRIDGE」を見学。エリアごとに緻密なコンセプトづくりがなされたスペースや、オープンな空間でのイベントの様子を見ることができました。また、ここでは様々な企業の取り組みや働き方について紹介いただきました。



学生の感想

ITという固定観念からNTT西日本さんのことをあまり知らなかったが、様々なことに挑戦できる環境があることを知りました。



JST-START事業スタートアップ・エコシステム形成支援

関西大学
イノベーション
創生センター

共催

京阪神 スタートアップ
アカデミア・コアリション
(KSAC)

2023年10月5日 / 19日(オンライン開催)

アントレプレナーシップ醸成セミナー
「大学生のためのアイデア創造体験セミナー」

株式会社ビーコンサルティングサービス 山下 浩氏

「価値創造への新たな視点や発想の在り方と手法を体験しながら学ぶ」をテーマに、固定観念からの脱却、新しい価値の創造に取り組みました。アイデアがなかなか浮かばないという問題に頭を抱えた参加者も、技法を用いたグループワークでは、様々な着想が飛び交っていました。本セミナーを通して、自分の中の常識や固定観念を打ち壊し、これまでの発想とは異なるアイデアを創造していく術を学ぶことができました。

学生の感想

アクティビティで思っていたよりアイデアが出ず、まだまだ自分の思考は固定観念に縛られていることに気づいた。



2024年度関西大学GAPプログラム(KUGAP)に
3つのプロジェクトが
採択されました。

社会学部 池内 裕美教授

「eラーニング用「カスハラ対応シミュレーションゲーム」
の実証および改良と発展」

総合情報学部 山西 良典准教授

「モノと共生するコトのDXへのアプローチによる事業化検証」

大学院理工学研究科

博士課程後期課程 総合理工学専攻 西上 翔磨さん
「群知能を用いた移動センシングクラスタによる
害獣探索システムの検証」

関西大学GAPプログラム(KUGAP)

2022年度に創設、翌年に開始された本プログラムは、関西大学での研究成果をもとに起業や事業化を目指す取り組みに対し支援することで、新しい社会価値の創出や広く社会課題の解決に寄与することを目的としています。2024年度は、学内選考を経て3件が採択され、4月より研究と事業化の間のギャップを埋めるためのPoC(概念実証)取得、プロトタイプ製作、実証実験、市場調査などに対し助成を行うとともに支援人材による伴走支援を実施します。

入居ベンチャーの 活動報告

▶ORAM株式会社が、国土交通省「中小企業イノベーション創出推進事業(SBIRフェーズ3基金事業)」の「災害に屈しない国土づくり、広域的・戦略的なインフラマネジメントに向けた技術の開発・実証」分野に採択されました。

▶株式会社KUREiが、「イノベーションリーダーズサミット(ILS)」のパワーマッチングにて、今年参加した国内外スタートアップ企業全844社の中から、大手企業からの人気上位100社として「ILS TOP100 STARTUPS」に選ばれました。



▶ORAM株式会社が、11月16日に開催された「ビジネスアイデアコンテスト-5G X Impact 2023-」ビジネスアイデア部門で「大阪市長賞」を受賞しました。

▶株式会社Ku:Pが、関西イノベーションイニシアティブ(KSII)のウェブサイトで紹介されました。

▶株式会社アイ・エレクトロライト、ORAM株式会社、株式会社Phindex Technologiesが、関西イノベーションイニシアティブ(KSII)が発行する「関西の大学発スタートアップがこれ1冊で分かる関西エリア大学発スタートアップ集"KSII Startups Collection"」で紹介されました。



ビジネス
アイデア
コンテスト

本学理工系の技術シーズを基に
ビジネスアイデアを競う

“SFinX2024”を開催

Sciences Fusion in X

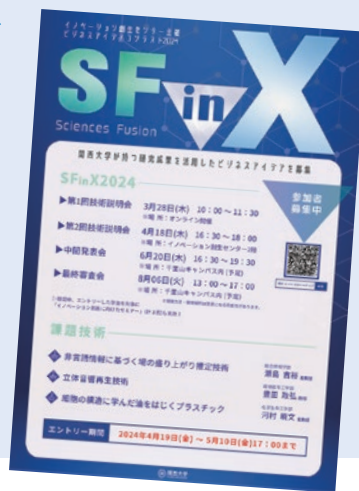
Social Science (社会科学), Natural Science (自然科学) など
様々なScience (科学) を融合して新しいビジネスXを提案しよう!
～SFinXのPuzzleに君はSolutionを提供できるか?～

技術
説明会

2024年4月18日(木) 16:30～18:00(予定)
アイデアの基となる課題技術の理解を深めます!

中間
発表会

2024年6月20日(木) 16:30～19:30(予定)
課題技術を理解し、その時点でのビジネスアイデアを発表
最終審査会に向けてビジネスアイデアをブラッシュアップ!



最終審査会

2024年8月6日(火) 13:00～17:00(予定)

イノベーターズトーク

企業見学会

春学期開催予定

詳細は、決まり次第、SNS・チラシ等でお知らせします。

学生コミュニティ
「Mission Lounge」活動報告

第99回花と緑のフェアで
無印良品とワークショップを実施しました!

11月3日に千里南公園で開催された第99回花と緑のフェアで、
Mission Loungeの学生が無印良品との共同企画によるワークショップ

「せかいにひとつ、オリジナルマイバッグづくり」を実施しました。当日は天候にも恵まれ、参加した地域の子供たちが想いのままにトートバッグに絵をかき、世界に一つしかないオリジナルバッグづくりを体験しました。

自分たちが発案・企画したイベントが実現するまでの大変さや苦労を痛感するとともに、ワークショップを盛況に終えることができた達成感を感じることができ、非常に学びの多い充実した1日となりました。



編集後記

皆さんおなじみのマリオブラザーズ。昨年生誕40周年を迎えながらもその人気は衰えることを知りません。そんなマリオがパワーアップするきっかけとなるのが赤い「きのこ」です。今号では、創刊以降初めて食品である「きのこ」を表紙に採用しました。Open Labで紹介する関大発ブランドきのこ「豊茸」です。西岡教授と老川教授による関大発の高付加価値食品の市場化への挑戦です。フードテックとも呼ばれる食の技術革新ですが、その市場規模は今後700兆円を超えるとも言われ、世界中のベンチャー企業がこぞって事業化に挑戦する注目分野です。本学を含むフードテックの様々な挑戦の中から、いずれはマリオの赤い「きのこ」のように一瞬でパワーアップする食品が出てくるかもしれない期待が膨らむばかりです。(研究支援・社会連携グループ長 井上和哉)

関西大学 イノベーション創生センター
Kansai University Center for Innovation & Creativity

〒564-8680 大阪府吹田市山手町3-3-35 TEL06-6368-1250 FAX06-6368-1237
E-mail: kucic@ml.kandai.jp https://www.kansai-u.ac.jp/renkei/innovation/index.html
発行日/2024年3月31日 発行/関西大学 イノベーション創生センター

関西大学 イノベーション創生センター は、学問分野の枠組みを越え、教員・学生・企業技術者との対話や交流を実現し、本格的なイノベーション創出の拠点を目指します。

関西大学イノベーション創生センターの
『今』をご紹介します!

